

重点目標 (めざす姿)		具体的方策	主 担 当	【評価指標】 ＜成果指標＞＜努力指標＞ ＜満足度指標＞	【評価の根拠】 達成度判断基準	取り組みの成果 及び課題への対策	評 価	学校関係者評価者による意見
1	組織的な 学校運営	①情報共有を充実させ、主 任等を中心とした同僚性・ 専門性を活かした研修・協働 する中で、教員の資質能力 の向上を図る。	教頭	＜成果指標＞ 主任層のリーダーシップの もと、各分掌と学年が縦横 の連携を図り、教員が資質 能力を高め、組織的な学校 づくりを行う。	＜教職員アンケート1＞ 学校経営ビジョンを理解し、必 要な情報を共有し連携を図り、 一人一人が資質能力を高めて組 織としての高まりを実感してい るか。	＜教職員アンケート1＞100% 学校経営ビジョンの中長期的経営目標のひとつである「組織 的な学校運営」にあるように主任層を中心とした組織がPDCA サイクルを機能させ、課題や重点・手立てを明確にし、行動の ベクトルが一つになるように実践してきた成果が見られる。そ して、一人ひとりが組織の一員としての自覚をもって学校経営 に参画し、高い同僚性を発揮できていることが本校の最大の強 みと言える。	A	・業務改善については、子ども と向き合う時間を確保しながらも、 引き続き削減できるものはないか という視点をもって業務の見直しを 行っていくとよい。 ・現在新学習指導要領の改訂に向 けて議論が行われているが、学校 裁量の部分をうまく活用できると 勤務時間の短縮につながるのでは ないか。
		②「気づき」を大切に、 常に改革・開発の意識でカリ キュラム・マネジメント を充実させ、自身の働き方 を見直し、多文化改善の具 体的な取り組みと平準化の 工夫を図る。	教頭	＜努力指標＞ 見通しを持ち業務の改善・ 効率化を図り、勤務時間の 短縮に努め、月2回定時退 校している。	＜教職員アンケート2,3＞ 常に課題意識を持ち、周囲に伝 えながらよりよい学校づくりに 参画し、見通しを持ち効率的に 業務を行い、勤務時間を短縮で きたか。	＜教職員アンケート2＞96% ＜教職員アンケート3＞53% 常に課題意識を持ち、情報共有しながらよりよい学校づく りに参画する意識の表れとして96%の結果が得られた。しか し、勤務時間の短縮においては様々な業務があり、課題が見ら れた。今後は学校裁量（教育課程や時程の見直し、教育活動の 効率化など）で改革できるところに手を入れながら、校務DX を積極的に推進し、業務の効率化に努めていく必要がある。ま た、一人ひとりが見通しをもった業務を行い、適切な勤務時間 の確保に努めたい。	D	
		③安全対策や危機管理の意 識と指導力を高め、いじめ や不登校等に対し組織とし て計画的に未然防止に取り 組むとともに対応を迅速に 行う。	生徒指導	＜努力指標＞ 情報交換を密に行い、各主 任や担任・学年会が縦横の 関係でいじめ・不登校に対 し組織的に対応している。	＜教職員アンケート4＞ 情報の共有化が密にできてお り、いじめ・不登校傾向にあ る生徒に対し、未然防止や早期 の適切な対応ができたか。	＜教職員アンケート4＞100% 定期的な生徒理解の会、学年会や職員朝での情報共有等漏れ のないよう丁寧な情報共有ができています。また、対応につい ても管理職を交えて具体を考えるなど組織的に進めています。未然防 止の視点をより具体的に持つために、職員会議での呼びかけや いじめ対応アドバイザーの派遣を依頼し校内研修会を行うこと を計画している。数値で満足せず、目の前の生徒が安心・安全 でより良い学びを得られるよう、工夫や改善を考え続けてい く。	A	
2	確かな 学力の 育成（知）	①教科と総合的な学習の時 間の学びを往還させ、「主 体的・対話的で深い学び」 を目指した授業を展開する 中で、授業をコーディネート する力を高め、デジタル 学習基盤を効果的に活用し た授業改善を図る。	研究	＜努力指標＞ 各教科および総合的な学習 の時間で、デジタル学習基 盤を活用して生徒の思考を 促す工夫を行い、まとめと 振り返りを充実させ、主 体的・対話的で深い学びを実現 する。	＜教職員アンケート5,6,14＞ ＜生徒アンケート 15,18,19,29,30＞ ＜保護者アンケート11＞ 生徒自身に、思考・判断し表 現させることを積極的に進めて いるか。デジタル学習基盤を意 識した取り組みができているか。 生徒が学びの高まりを実感し ているか。	＜教職員アンケート5＞81%（6）96%（14）81% ＜生徒アンケート15＞93%（18）92%（19）93% ＜29＞98%（30）95% ＜保護者アンケート11＞87% 目標達成にこだわった授業づくりのために、生徒が思考・判 断し表現させることをどの教科においても積極的に進めてい る。また、ICT機器を意図的に活用することにより、生徒の学 びが深まり、生徒自身もそのことを実感できているようであ る。職員のみまとめ振り返り、そしてICT活用に対する意識が高 くなっていることで、引き続き課題とまとめの整合性を意識し た授業構成に努めている。	B	・アンケートの結果より、生徒た ちがICTを活用しながら学びを深め ていることがわかる。 ・職場体験での生徒の様子を見 ると漢字を書く力の低下が感じられ る。ICTの活用も必要だが、アナロ グで書く時間も確保する必要がある。
		②「授業の辰人スタイル」 を身に付け、生徒の自ら学 ぶ積極的な態度を育てると ともに、生徒全員が「わか る・できる」授業をめざす。	研究	＜満足度指標＞ 「授業の辰人スタイル」を 意識した授業を行い、場 面を逃さずに褒め、生徒全員 が「わかる・できる」と実感 できる授業を創る。	＜教職員アンケート7,9＞ ＜生徒アンケート14,17＞ 自ら学ぶ積極的な態度が身につ き、授業がわかり、できるよう になった実感があるか。	＜教職員アンケート7＞96%（9）96% ＜生徒アンケート14＞87%（17）92% 職員が「授業における辰人スタイル」を意識しながら、生徒 の活動時間や発話の確保に努め、わかる授業づくりを進めてい る。今後は、生徒が課題に対して自分で考え、主体的に学ぶた めの課題設定に教職員の取り組みを焦点化し、各教科部会での 定期的な交流、意見交換を進めていく。	B	
		③学びのPDCAを構築し、 計画的、組織的に学力の基 礎と学びの改善を重ね、基 礎的知識・技能の定着と、 これらを活用する思考力・ 判断力・表現力を育成する。	教務	＜成果指標＞ 学力向上ロードマップを活 用し、基礎的知識・技能や 思考力・判断力・表現力等 の向上に努めている。	＜教職員アンケート8＞ PDCAサイクルを実施し、学力 の検証・改善がなされ、様々な 面での学力の向上に表れている か。	＜教職員アンケート8＞92% 4月に全国及び県の学力調査の自己採点をを行い、各教科で学 力向上プランを作成した。今年度も課題を絞って取り組みを焦 点化した。学力調査の結果公表後に分析をもう一度見直し、課 題を資質・能力で捉え、2学期以降の取り組み内容を各教科で 共有した。今後はプランに従って取り組みと検証を確実に 行い、求められている資質能力の育成に努めていく。	A	
3	豊かな 心の 育成（徳）	①集団の中での自分の役 割を果たすことを通して自己 肯定感を高められるよう、 認め合える温かな学級づく りをめざす。	生徒指導	＜満足度指標＞ 生徒指導の4つの視点を意 識し、学習集団、生活集団 としての機能を高める学級 づくりに努めている。	＜教職員アンケート10＞ ＜生徒アンケート25＞ 生徒アンケート結果や生徒面談 を活かし、親和的な学級づく りに努めているか。生徒の自己 肯定感が高まっているか。	＜教職員アンケート10＞100% ＜生徒アンケート25＞94% 教職員においては、各学年、各学級ともアンケートや面談を もとに親和的な学年学級づくりや、各個人に対して非常に丁寧 に指導にあたっている。生徒においても、各種行事における 役割や、クラス内の一人役など役割を与えらる場面が多くあ り、そこで自分の役割を果たそうと動く状況を今後も設定 し、自己肯定感が高められる場を意図的に作っていく。	A	・学級で生徒一人ひとりが活躍 する場が設定され、自己肯定感が 高まっていることが予想されい。 ・ボランティアに参加する意識 の向上はなかなか難しいが、経験 者の思いを交流するなどして継続 してきたい。
		②生徒会活動やボラン ティア活動を通して自治・自 浄の能力を高めるとともに、 他のために役立つ自己を実 感させる。	生徒指導	＜満足度指標＞ 生徒会活動やボランティア 活動に積極的に取り組み、 積極的な生徒指導を行って いる。	＜生徒アンケート23＞ 生徒会活動やボランティア活 動が活発で、自己有用感が高ま っているか。	＜教職員アンケート9＞96% ＜生徒アンケート23＞77% 生徒主体で、委員会単位で生徒から発信するものが以前より 増えている。生徒会の提案から各委員会が動くこの形態を継続 していく。また、1学期はペットボトルのキャップ回収やボラ ンティアチャレンジに多くの協力を得ることができた。今後も 生徒にボランティアの意義や感じられる充実感の声かけ等も発 信したい。	C	
4	健やか な心身の 育成（体）	①生徒の不安や悩みを迅速 に把握し、解消できるよう に相談体制や居場所を充実 させ、困り感のある生徒に は個に応じた配慮を工夫す る。	生徒指導	＜満足度指標＞ 教育相談体制を充実させ、 生徒の相談を把握・共有 し、問題の解消に努めてい る。	＜保護者アンケート5＞ 学校は、不安を持っている生徒 や困っている生徒の事態を把握 し、問題の解消に努めている か。	＜保護者アンケート5＞88% 生徒理解の会での情報交換や支援体制の確認、相談室の活用 による居場所の確保など対応はできている。また、生徒との個 別の面談により、不安や困り感を吸い上げる体制を続けてい く。スクールカウンセラーや外部専門機関の紹介など、困り感 のある生徒に応じた対応を継続していく。	B	・困り感のある生徒への対応につ いて、先生方が丁寧に対応してい ることがわかるので今後も継続し てほしい。
		②家庭と連携してインター ネットのルールを徹底する とともに、起きる時間、寝 る時間、学習時間を確保す るなど望ましい生活習慣の 確立を図る。	生徒指導	＜満足度指標＞ 家庭と学校の連携力が高ま り、家庭のネットのルール が守られ、良い成果が出て きている。	＜保護者アンケート6,8,9＞ ネットトラブルやネット依存防 止のために、フィルタリングや ルール作りを行っているか。 ＜生徒アンケート20＞ ＜教職員アンケート12＞ 時間の3点確保ができ、望まし い生活習慣が確立できたか。	＜保護者アンケート6＞80%（8）85%（9）83% ＜生徒アンケート20＞76% ＜教職員アンケート12＞84% ネットとの向き合い方については、学校全体や各学年等で生 徒の現状や行事等の機会を想定し、定期的に行っている。ネ ットはもちろんだ、より良い生活リズムのために時間の見直しを 持たせられるよう、家庭への呼びかけもきめて、学校での取り 組みは引き続き行っていく。また、小中連携の視点も加えてい く。	C	
		③体育的活動・部活動を中心 に、仲間と協力しながら、体 力を高めるとともに、自分 で設定した目標に向かっ て努力する。	保健文化	＜成果指標＞ 体育的活動・部活動を通 じ、親和的な人間関係を育 みながら体力を向上させ、 自分なりに設定した目標に 向かって努力している。	＜教職員アンケート11＞ 体育的活動・部活動を中心とし て、生徒に目標を設定させ、目 標達成に向けて努力を積み上げ ていくことができるような手立 てや支援を工夫しているか。 ＜生徒アンケート28＞ 部活動は楽しく充実している。	＜教職員アンケート11＞100% ＜生徒アンケート28＞90% 部活動や体育の授業の際、教師が適切に生徒たちの目標設 定、およびその目標達成に向けての取り組みを支援してこれた 結果だと考えられる。部活動に前向きではない生徒に対しては 個に応じた目標設定の支援を行ったり、前向きにない原因 を本人の技能や人間関係に配慮しながら寄り添い、探ってい く必要がある。	A	
5	家庭や 地域との 連携	①地域の特徴を積極的に学 習に活かす中で、地域の未 来や、社会貢献、自分の生 き方考える等、教育活動の 更なる充実を図る。	教務	＜努力指標＞ 地域のヒト・モノ・コトを 活用し、地域や自分の在り 方を考え、社会貢献できる 生徒づくりに努めている。	＜教職員アンケート13＞ 教科横断的な視点を持ち、地域 リソースを生かした教育活動が 行えたか。 ＜生徒アンケート12＞ 地域とのつながりや考え、地域 の方や先生から学ぶことがで きたか。	＜教職員アンケート13＞100% ＜生徒アンケート12＞98% 1年生は5月の校外学習で「能美ふるさとミュージアム」を 訪問し、2年生は夏季休業中に職場体験を実施するなど地域リ ソースを生かした教育活動を行った。また2学期は総合的な学 習の課題研究において、地域との連携を図りながら各自の研究 を深めていく。	A	・課題研究について、インター ネットで調べたことはたくさん あるが、地域に出向いて人との ふれあいや学ぶこともできると よい。 ・学校運営協議会の活動を保護 者や生徒に知らせていきたい。
		②学校運営協議会と連携 し、学校・家庭・地域の協 力体制を構築し、よりよい 学校づくりを推進する。	教頭	＜満足度指標＞ 学校と家庭、地域の連携力 が高まり、良い成果が出て きている。	＜保護者アンケート7,10＞ 学校と家庭、地域が連携して子 どもを育てていると感じてい るか。	＜保護者アンケート7＞92% ＜保護者アンケート10＞83% 学校生活について、行事や日常的な様子など、保護者や地域 の方に伝わるように学校HPの充実にも努めている。また、「コ ドモン」による学校・家庭の双方の連絡ツールの活用によ り、各種便りの配信や保護者の意見等の集約を行うことができ た。授業においては学校運営協議会の支援のもと、家庭科を中 心に多数の地域の方に協力いただき、活動することができた。 引き続き、学校と家庭、地域が連携して子どもたちを育ててい く。	B	

◆【評価の根拠】は生徒・保護者・教職員アンケートによって、《肯定的な意見がA:90%、B:80%、C:70%、D:70%未満》として評価する。

◆評価は＜1:そう思う、2:どちらかと言えばそう思う、3:どちらかと言えばそう思わない、4:そう思わない＞の4つで選択する。

◆各項目で評価をする際に、2つ以上のアンケートを必要とする場合は、上記の意見で低い方の結果を評価する。